

5. 精神および行動の障害 (F329)

文献

Noda Y, Izuno T, Tsuchiya Y, et al. Acupuncture-induced changes of vagal function in patients with depression: a preliminary sham-controlled study with press needles. *Complementary Therapies in Clinical Practice* 2015; 21(3): 193-200. PMID: 26256139

1. 目的

うつ病に対する鍼（円皮鍼）の治療効果と治効メカニズムを検討。

2. 研究デザイン

比較試験

3. セッティング

神奈川県立精神医療センター、神奈川、日本

4. 参加者

薬物治療抵抗性うつ病の入院患者 30 名（男性 16・女性 14、平均 50 歳±11(SD)、単極性 20・双極 I 型 2・双極 II 型 4、気分変調性障害 4）、健常者 12 名（男性 5・女性 7 平均 36 歳±8(SD)）。年齢と性別をマッチするように 2 群に割り付けた。

5. 介入

Arm 1: 円皮鍼群（鍼長 0.6 mm、直径 0.2 mm）

Arm 2: 偽円皮鍼群（鍼先なし）

両側の郄門、手三里、陰陵泉、三陰交に 3 日間貼付

6. 主な評価項目

心理学的評価としてベック抑うつ質問票（BDI-II）および状態-特性不安検査（STAI）、生物学的評価として血圧、脈拍、心電図 R-R 間隔、交感神経活動指標（CSI）、副交感神経活動指標（CVI）、超低周波数成分（VLF）、LF/HF。

7. 主な結果

円皮鍼群の患者 15 名・健常者 6 名、偽円皮鍼群の患者 15 名・健常者 6 名で脱落者なし。円皮鍼群では BDI-II、収縮期/拡張期血圧、および R-R 間隔変動係数と CVI からみた迷走神経機能が、偽円皮鍼群と比べて有意に改善した。また、うつ患者は健常者と比較して有意に低い迷走神経機能を呈しており、STAI における不安症状の改善と交感神経活動抑制との間には相関がみられた。

8. 結論・意義

円皮鍼は、ボトムアップ・ニューロモデュレーションにより迷走神経機能を改善させることにより、うつの治療効果を発揮することが示唆される。

9. 鍼灸医学的言及

Kiiko-Style における頭部瘀血の概念に基づいて選穴。

10. 論文中の安全性評価

円皮鍼による自律神経機能障害、異常低血圧、皮膚の障害といった有害事象は観察されなかった。

11. Abstractor のコメント

うつ指標の改善と自律神経機能の変化との関係を示したデータは興味深い。小規模の試験に知りたいテーマを盛り込みすぎた感が否めない。円皮鍼群の患者の BDI-II が治療前後で有意に改善したとされるが、鍼刺激前から偽円皮鍼群との間に大きな差があり、ベースライン不均等が生じている。年齢と性別だけでなく、うつ指標のマッチングが必要であったと思われる。しかしながら、うつに対する鍼治療の臨床的効果は今後さらに期待されると思われるため、円皮鍼のような簡便な手段を用いたケアの可能性を探った点で有用な研究である。著者ら自身も認める通り、今回観察された事象は短期効果であるため、臨床応用可能性を確認するには患者をランダム割付して長期的な臨床効果を検証する必要がある。

12. Abstractor and date

山下 仁 2022.3.7